

【分野】麦

幼穂凍死を回避する麦の播種時期

【要約】

ビール大麦と糯性裸麦について幼穂凍死を回避する播種時期を明らかにしました。

【背景】

近年の温暖化により麦の生育初期が暖冬傾向で推移し、幼穂形成と節間伸長開始が早まる傾向にあります。そのため、10月に播種すると茎立後に低温に遭遇する場合もあり、幼穂凍死の危険性が高まっています。そこで、幼穂凍死を回避できる播種時期の検討を行いました。

【結果】

ビール大麦「サチホゴールド」は11月中旬以降に、糯性裸麦「キラリモチ」は11月に播種すると、幼穂凍死を回避できます。

また、糯性裸麦「ダイシモチ」は、10月中旬に播種しても、幼穂凍死は生じませんが、収量を確保するための播種適期は11月です。



健全な幼穂(左)と凍死した幼穂(右)

担当:農業研究所 作物・経営研究室(086-955-0275)

研究課題名:主要農作物試験(麦類)(S28～)